

カミネファームの皆さんと成塚代表（前列中央）



## 妻沼茶豆普及へ農家団結

埼玉・熊谷市 カミネファーム

### 手作業で収穫、枝豆・納豆を商品化

【埼玉】熊谷市の農カミネファーム（成塚伸夫代表理事、60）は、農家5人で麦や水稲、ネギ、大豆、茶豆などを23畝（うち大豆は約12畝）栽培している。

同市妻沼地域の在来大豆「妻沼茶豆」は赤みを帯びた茶色の大豆で、コクと甘みがあるのが特長だ。晩生のため夏に種をまき、秋に収穫する。

この茶豆を守っているとして2012年、地元農家が同ファームを設立した。一番良い時期に手作業で刈り取るのを特に心がけている。

14年には研究会を立ち上げて枝豆として販売し、同市の特産品になっている。「良さを伝えるには、実際に食べてもらうのが一番」と成塚さん。20年には妻沼茶豆納豆を県農林振興センターからの提案で商品化し、道の駅めぬまやJAくまがやふれあいセンターなどで販売している。塩やワサビで食べるのがおすすめで、めかぶとの相性も良いという。

「栽培技術を次世代につなぎ、多くの人に妻沼茶豆を広めていきたい」と成塚さんは話す。